



子供たちが 育てる人になる

「じよろ」 小林 純一
じよろ、という字はね。
如（じよ）、雨（う）、露（ろ）と書くんだよ、
雨降る如く、露おく如く……
ね、水をまくのじゃなく、雨を降らすように、
やわらかく、やわらかく……
ヨシコもやっごらん。
そう、そう、
しゃわ しゃわ しゃわ
しゃわ しゃわ しゃわ
ほら、葉っぱが 声をあげているだろう。
草が からだをくねらせて いるだろう。
花びらが 輝きだしたろう、
うれしいのさ、喜んでるのさ。
じよろで 雨を降らせているとき、
人は神さまになる……
え？天使のほうが いい？
そう 子どもだったら 天使になる……
やさしい気持ちになって、やさしい顔になって……
おぼえておおき、じよろは 如雨露
水をまくんじやないよ、雨をそそぐんだよ、露をうる
おすんだよ。
しゃわ しゃわ しゃわ しゃわ しゃわ
やわらかく やわらかく。
「茂作じいさん」小林純一詩
(ジュニア・ポエム双書)



1年生 サツマイモ



2年生 夏野菜



3年生 ホウセンカなど



1年生 アサガオ

低学年の子供たちが、毎朝、自分の植木鉢に駆け寄り、水まきをしています。子供が一生懸命に世話をし、盛夏に向けて植物たちも賑やかになるこの時期は、生命のエネルギーを感じます。

「ぼくのアサガオ、元気かな。」子供たちが植物に愛情をかけて深く関わる日々は、感性が揺さぶられ、学校生活も充実しているはずです。

葉についてアブラムシを地道に取り除いたり、うなだれた葉を心配そうに見つめてたっぷり水をあげたりと、心を寄せて健気に世話をする姿は微笑ましいです。また、花や実の数を数えたり、背丈や大きさを測ったり、植物の体のつくりや成長の過程を知ったり、色水をつくって遊んだり、つるでリースを作ったり、食のありがたみを感じたり、枯れたり病気になったりする悲しさやつらさを体験したり……活動を通して植物は子供たちに様々なことを教えてくれます。

「ミニトマトと一緒に、わたしも成長しているなって思います」そんな感想を書いた子もいました。植物の生命を守っていた「わたし」の存在に気付いたのでしょう。「育てることは自らが育つこと」子育ては、自分も育つことだと感じた、忙しいけど充実していた日々を思い出します。



6年生 交通安全リーダーと語る会

地区交通安全指導員、富士警察署交通課、広見町交番の職員の方々をお迎えし、6年生が交通安全について考えたこと、提案したいことを発表し、意見交換をしました。



カップスタッキングサークル

を結成しました！！

6月4日に地区で開催されたカップスタッキング大会に参加した子供、当日参加できなかったけど得意な子供を中心に結成しました。平成7年にオーシャンサイド市との友好から始まったカップスタッキング。仲間の輪を広げ、今後子供たちがレクリエーションや競技会、交流会などを企画してくれたらと願っています。